

静岡経済研究所 NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
静岡市葵区追手町 1-13
TEL 054-250-8750
FAX 054-250-8770

静岡県内主要産業の四半期見通し調査（平成 28 年 10～12 月期）

県内産業景気は横ばい続く

産業景気は回復力弱く、全20業種で『横ばい』続く

新興国経済の減速や円高の定着により、輸出起業を中心に回復の兆しが見えず、超低金利下にあるものの、中小企業の設備投資マインドも冷え込んでいる。今後の見通しについても、個人消費の伸び悩みや人手不足など懸念材料は多く、県内産業の景気は、引き続き横ばいの状態が続きそう。

なお、業種ごとの10～12月期の業界景気見通しは、主要20業種すべて『横ばい』。

『好調』はなく、『順調』が2業種、『普通』が7業種、『低調』が10業種、『不調』が1業種の見通し。

業種	調査項目	業界景気	
		現況(7～9月)	見通し(10～12月)
製茶		● → ●	● → ●
食品・飲料		● → ●	● → ●
家庭紙		● → ●	● → ●
産業用紙		● → ●	● → ●
工作機械		● → ●	● → ●
民生用電器部品		● → ●	● → ●
自動車部品		● → ●	● → ●
二輪車部品		☂ → ☂	☂ → ☂
建設		● → ●	● → ●
住宅		● → ●	● → ●
大型小売店		● → ●	● → ●
食品スーパー		● → ●	● → ●
自動車販売		● → ●	● → ●
家電量販店		● → ●	● → ●
運輸・倉庫		● → ●	● → ●
情報サービス		○ → ○	○ → ○
外食		● → ●	● → ●
観光・レジャー		● → ●	● → ●
リース		● → ●	● → ●
人材派遣		○ → ○	○ → ○

担当：主席研究員 山崎 眞嗣
主席研究員 望月 毅

県内産業景気は横ばい続く

8月後半以降頻発した台風の影響により、生鮮品の出荷遅れや高値が続いた食品スーパー、外出が控えられた観光・レジャーなど、個人消費関連は天候に足を引っ張られた。また、新興国経済の減速や円高の定着により、輸出企業を中心に回復の兆しが見えてきていない。超低金利下にあるものの、中小企業の設備投資マインドも冷え込んでいる。

今後の見通しについても、個人消費の伸び悩みや企業の人手不足など懸念材料は多く、国内景気回復に向けた足掛かりを見出せない。政府の大型補正予算に期待がかかるが、景気の先行き不透明感を払しょくするまでの力強さは期待できず、県内産業の景気は、引き続き横ばいの状態が続くそう。

(1) 業界景気の現況について

県内産業（主要20業種）の現在（平成28年7～9月期）の業況は、『好調』業種はなく、『順調』が「情報サービス」、「人材派遣」の2業種、『普通』が「食品・飲料」、「家庭紙」、「工作機械」、「民生用電器部品」、「建設」、「外食」、「観光・レジャー」の7業種、『低調』が「自動車部品」、「住宅」など10業種、『不調』が「二輪車部品」1業種となった。

前回（平成28年6月）調査との比較では、全20業種とも業況に変化はなかった。

(2) 業界景気の見通しについて

平成28年10～12月期の景気見通しは、主要20業種すべて『横ばい』の見通しとなった。

『横ばい』20業種のうち、『順調』が続くとみられるのが、引き続きソフト開発が堅調に推移すると予想される「情報サービス」と、人手不足を背景にニーズが根強い「人材派遣」の2業種。

『普通』のまま『横ばい』と予想されるのは、主力のツナ缶を中心に需要が底堅い「食品・飲料」、再生トイレ紙、ティッシュとも需要が堅調な「家庭紙」、一定の受注水準を確保している「工作機械」、国内外での業務用エアコンなどの需要が底堅い「民生用電器部品」、商業施設や介護施設等の新設計画が見込まれる「建設」、キャンペーンにより客数の増加を狙う「外食」、観光列車「伊豆クレイル」の運行などにより伊豆東海岸を中心に観光客が増加する見込みの「観光・レジャー」の7業種。

一方、『低調』のまま『横ばい』が続くのは、贈答需要の低迷が続く「製茶」、在庫の増加が懸念される「産業用紙」、軽自動車販売の回復が遅れている「自動車部品」、「自動車販売」、長引く低金利下で需要の先食いもあり、駆け込み需要が期待できない「住宅」、ネット通販などとの競合激化で衣料品の不振が続く「大型小売店」、相次ぐ台風の影響で農産物価格の高値が続く「食品スーパー」、リオデジャネイロ五輪特需の反動がある「家電量販店」、ウエイトの高い輸送用機械器具の荷動きが伸び悩む「運輸・倉庫」、中小企業を中心に設備投資に慎重な姿勢をとる企業が増え、案件数が伸び悩む「リース」の10業種。

『不調』のまま『横ばい』を見込むのは、円高による欧州向け輸出への影響が懸念される「二輪車部品」1業種。

静岡県内産業の四半期ごとの業界景気の『現況』と『見通し』推移

年次		平成25年	平成26年				平成27年				平成28年		
四半期		Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ (今回調査)
対象月(○は調査月)		10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9
業界景気の『現況』	好調 ☀	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
	順調 ○	4	5	1	1	2	1	2	3	2	2	2	2
	普通 ◐	6	7	5	5	4	4	3	5	7	7	7	7
	低調 ☁	9	6	13	13	13	13	13	11	10	10	10	10
	不調 ☂	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	全業種の平均階級値	2.65	2.95	2.30	2.30	2.35	2.40	2.45	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50
好調：5													
順調：4													
普通：3													
低調：2													
不調：1													
業界景気の『見通し』	上昇 ↗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	やや上昇 ↗	5	0	1	2	0	2	2	0	0	1	0	0
	横ばい →	15	12	19	18	20	18	18	20	20	19	19	20
	やや下降 ↘	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	下降 ↘	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(9月調査であれば7~9月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(9月調査であれば10~12月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。
 調査時点…平成28年9月下旬
 回答企業…県内主要20業種(229社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、20業種の平均値。

平成 28 年 10 ～ 12 月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気		静岡県内主要産業の見通し									
	現況 (7～9月)	見通し (10～12月)	生産量 (前7～9月期 対比伸び率)	売上高 (前7～9月期 対比伸び率)	生産量 (前年 同期比 率)	売上高 (前年 同期比 率)	操 業 度	需 給 バ ラ ン ス	製 品 在 庫 水 準	原 材 料 価 格 の 動 向 (前7～9月期対比)	製 品 価 格 の 動 向 (前7～9月期対比)	受 注 残 (ヵ月)
製 茶	☁ → ☁	☁	—	—	—	→	○	均 衡	適 正	→	→	—
食 品・飲 料	○ → ○	○	→	→	↗	↗	○	均 衡	適 正	→	→	0.5～1.0
家 庭 紙	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～1.0
産 業 用 紙	☁ → ☁	☁	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～1.0
工 作 機 械	○ → ○	○	→	→	↘	↘	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～6.0
民 生 用 電 器 部 品	○ → ○	○	↘	↘	→	→	○	供 給 超 過	適 正	→	→	0.5～3.0
自 動 車 部 品	☁ → ☁	☁	↗	↗	↗	↗	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～3.0
二 輪 車 部 品	☂ → ☂	☂	↗	↗	→	→	◇	均 衡	適 正	→	→	0.5～3.0
建 設	○ → ○	○	—	→	—	→	○	均 衡	適 正	→	→	4.0～10.0
住 宅	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～6.0
大 型 小 売 店	☁ → ☁	☁	—	↘	—	↘	—	供 給 超 過	適 正	→	→	—
食 品 スー パー	☁ → ☁	☁	—	↘	—	↘	—	供 給 超 過	適 正	→	→	—
自 動 車 販 売	☁ → ☁	☁	—	↘	—	→	—	均 衡	適 正	→	→	—
家 電 量 販 店	☁ → ☁	☁	—	↘	—	↘	—	供 給 超 過	適 正	→	→	—
運 輸 ・ 倉 庫	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	○	均 衡	—	→	→	—
情 報 サービス	○ → ○	○	—	↗	—	↗	○	需 要 超 過	—	→	→	—
外 食	○ → ○	○	—	→	—	→	—	均 衡	—	↗	→	—
観 光 ・ レ ジャー	○ → ○	○	—	↘	—	→	—	供 給 超 過	—	→	→	—
リ ー ス	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	—	—	—	—	—
人 材 派 遣	○ → ○	○	—	→	—	↗	○	需 要 超 過	—	→	→	—

表の見方と注意

業界景気の現況 見通し	業界景気の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操 業 度	需給バランス	製品在庫水準
好 調 ☀	上 昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順 調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需 要 超 過	過 少
普 通 ●	横 ば い →	横 ば い → (+2～△2%) →	79～70% ◇	均 衡	適 正
低 調 ☁	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ⊙	供 給 超 過	過 多
不 調 ☂	下 降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多

主要業種の現況と10～12月期の景況見通し

業種	業界天気	静岡茶の愛飲条例化で小中学校から緑茶需要を拡大へ
製 茶	☁ → ☁	<p>(現況)・製茶問屋の売上高は前年並みとなった模様。贈答需要は低迷が続くが、水出し冷茶の販促が定着してきた。二番茶は3年連続の減産で、供給不足から仕入コストが前年比2割近く上昇した。</p> <p>(見通し)・製茶問屋の売上は、前年並みで推移する見通し。秋口は暑さが残るものの、年末にかけて例年以上に冷え込む日が増えそうで、需要の増加に期待。なお、県では小中学校での静岡茶愛飲を促進する条例を検討中で、将来的な需要拡大につながると期待がかかる。</p>

業種	業界天気	節約・内食志向の継続で缶詰生産量は前年比増の見通し
食 品 ・ 飲 料	● → ●	<p>(現況)・県内の食料缶生産量は、前年比+5%程度増加した模様。主力のツナ缶は、新製品の投入と販促効果で前年をやや上回った。飲料缶は、夏場前半の猛暑で前年水準を上回ったとみられる。</p> <p>(見通し)・県内の食料缶生産量は、前年をやや上回る見通し。主力のツナ缶は、消費者の節約・内食志向の継続とメーカーの販促により前年実績を上回るとみられる。レトルトパウチも新商品を中心に増加が予想される。飲料缶も、低水準だった前年を上回る見通し。</p>

業種	業界天気	トイレ紙は前年水準確保も、大手パルプ物の攻勢が続く
家 庭 紙	● → ●	<p>(現況)・家庭紙の生産量は、前年をやや上回った模様。再生トイレ紙の生産量は堅調に推移したが、価格差縮小から大手パルプ物の存在感が増している。ティッシュは前年をやや上回ったが、低価格帯を中心にやや軟調で推移した。</p> <p>(見通し)・家庭紙の生産量は、ほぼ前年並みとなる見通し。再生トイレ紙は、前年並みを見込むが、大手パルプ物の攻勢が続き、競争環境は徐々に厳しくなるとみられる。ティッシュも前年並みとなる見通し。価格面は引き続き厳しい状況が続きそうで、為替次第で輸入品の攻勢が強まる懸念もある。</p>

業種	業界天気	段ボール原紙は堅調も、在庫の増加が気掛かり
産 業 用 紙	☁ → ☁	<p>(現況)・産業用紙の生産量は、前年をやや上回った模様。段ボール原紙は、8月まで暑い日が続いたため飲料向けなどが好調で、前年をやや上回った。白板紙は、販売価格は上がっていないものの、生産量は前年をやや上回った。</p> <p>(見通し)・産業用紙の生産量は、前年並みとなる見通し。段ボール原紙は、主力の食品向けで冷凍食品などに底堅い需要を見込むが、全体では前年並みの生産量となる見込みで、在庫の増加は気掛かり。白板紙も前年並みとなる見通し。需要低迷に底打ち感が出てきたが、本格回復には時間がかかりそう。</p>

○好調 ○順調 ●普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	受注額は前年を若干下回る見込み、先行きに好材料少ない
工作機械	○	(現況)・全国および県内の受注額は、前年を▲10%程度下回って推移した模様。外需はアジアや米国向けが不振で、前年を▲10%近く下回ったとみられる。また、補助金効果が薄れ、内需も前年を▲10%程度下回って推移した。
	→ ●	(見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年を若干下回って推移する見通し。外需は、メインの中国市場向けで低迷が続くとみられ、円高もマイナスに働く見込み。内需も、設備投資マインドの慎重姿勢が強まっている。業界の景気判断の目安となる受注水準は確保するも、先行きに好材料は少ない。

業種	業界天気	夏の在庫の影響から、エアコン出荷台数は前年を下回る見通し
民生用電器部品	○	(現況)・家庭用エアコンの出荷台数は、猛暑予想から前年を上回ると見込まれたが、来客が期待された週末の天候が悪く販売が伸びず、前年並みとなった模様。冷蔵庫も、人気の大型タイプで前年割れの月もあり、全体では前年並みとなった模様。
	→ ●	(見通し)・家庭用エアコンの出荷台数は、前年実績を下回る見通し。家電量販店に在庫が残っている影響から、仕入量はかなり絞り込まれる見込み。一方、業務用エアコンは、国内外とも手堅く推移する見通し。冷蔵庫と洗濯機も、一進一退の状況が続くとみられる。

業種	業界天気	挽回生産続き、国内生産は前年をやや上回る見通し
自動車部品	●	(現況)・国内の自動車生産台数は、前年比+5%程度増加した模様。4月の熊本地震などによる減少分の挽回生産が始まり、登録車が前年を上回った。部品メーカーの出荷高は、前年並みで推移したとみられる。
	→ ●	(見通し)・国内の自動車生産台数は、前年をやや上回って推移する見通し。トヨタでは、前期に引き続き上期の減産分について挽回生産を進める予定。一方、軽自動車市場は前年割れが続くとみられる。部品メーカーの受注量は、登録車が前年を上回る一方、軽自動車は前年を下回って推移する見込み。

業種	業界天気	生産拠点が復旧、国内生産は前年並みで推移する見通し
二輪車部品	☂	(現況)・全国完成車生産台数は、前年比▲10～20%減少した模様。熊本地震で被災したホンダ熊本製作所の完全復旧が9月にずれ込んだことが響いた。県内部品メーカーの生産量は、前年を下回って推移した模様。
	→ ☂	(見通し)・全国完成車生産台数は、ホンダ熊本製作所の完全復旧に伴い、前年並みで推移する見通し。一方、為替が円高基調で推移していることから、今後、欧米向け輸出への影響が懸念される。県内部品メーカーの生産量は、ほぼ前年並みで推移する見通し。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ● 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	公共は大型案件少なく、民間は前年並みを見込む
建設	○ → ●	(現況)・公共工事契約額は、前年を下回った模様。県は、上半期の公共事業発注目標を年間発注の8割としていたが、契約の遅れが目立ち、目標を下回った模様。民間は、大学新キャンパスなどの大型案件が目立ち、前年を大幅に上回ったとみられる。 (見通し)・公共工事契約額は、前年をやや下回る見通し。国については5, 6月にみられたような大型特殊案件の予定はなく、県、市町も弱含みが続くと思われる。民間の工事費予定額は、商業施設の出店が複数計画されているほか、介護施設や保育園などの新設が見込まれ、前年並みとなる見通し。

業種	業界天気	ローン金利は過去最低水準、需要は堅調な推移を見込む
住宅	☁ → ☁	(現況)・持家の新設着工戸数は、前年を上回った模様。7～8月にかけて、各金融機関が固定型住宅ローン金利を過去最低水準まで下げ、需要を後押しした。貸家も、中部地区を中心に伸びており、前年を上回ったとみられる。 (見通し)・持家の新設着工戸数は、前年並みとなる見通し。日銀が長期金利のマイナス幅縮小方針を決定し、ローン金利も底打ちが予想されるが、長引く低金利状況下では実需の先食いもあったとみられ、駆け込み需要は期待できない。貸家は、節税対策の関心が依然として高く、堅調に推移する見通し。

業種	業界天気	消費者の節約志向が強まる中、経営環境は厳しさを増す
大型小売店	☁ → ☁	(現況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回った模様。百貨店は、化粧品が底堅く推移したが、主力の衣料品が振るわず、前年を割り込んだ。また、スーパーも、来客数の伸び悩みなどにより、前年をやや下回って推移した模様。 (見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年並みで推移する見通し。百貨店は、ネット通販やファストファッションなどとの競合激化で衣料品の不振が続き、売上全体も伸び悩むとみられる。スーパーも、消費者の節約志向が強まる中、低価格競争が激化し、収益環境は厳しさを増す見込み。

業種	業界天気	北海道への台風上陸で、農産物の価格高騰が続く見通し
食品スーパー	☁ → ☁	(現況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや下回った模様。夏場の猛暑で、氷菓や飲料が伸長したものの、8月下旬の北海道への台風上陸により、ニンジンや玉ねぎなどの価格が急騰、消費者の買い控えが発生した。 (見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや下回る見通し。北海道への台風上陸による被害は長期に渡るとみられ、ニンジンやジャガイモ、玉ねぎといった農産物の価格は高値が続く見込み。また、消費者の節約志向も強まっており、店舗間の価格競争が激化するとみられる。

○好調 ○順調 ●普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	登録車は前年並み、軽自動車は燃費問題が響き苦戦が続く
自動車販売	☁ → ☁	(現況)・県内の乗用車販売台数は、前年並みとなった。登録車は、ハイブリッド車を中心に受注が伸びた。軽自動車は、燃費問題の影響で購入を控える顧客もあり、販売台数は前年を▲2%下回った。特に、三菱、日産は苦戦が続いている。 (見通し)・登録車の乗用車販売台数は、前年並みとなる見通し。SUVなど新型車の発売が年内に予定されており、受注の伸びが期待できる。軽自動車は、燃費問題の影響を受けたメーカーで新型車の発売スケジュールに遅れが出るなどの影響もみられ、前年を下回る見込み。

業種	業界天気	所得の伸び悩みなどを背景に、前年を下回る見通し
家電量販店	☁ → ☁	(現況)・薄型テレビの販売額は、8月開催のリオデジャネイロ五輪による需要の押上げで、前年を+1割程度上回った。エアコンは高水準だった前年の反動で落ち込んだほか、冷蔵庫や洗濯機も伸び悩み、家電全体の販売額は前年をやや下回った。 (見通し)・薄型テレビの販売額は、リオデジャネイロ五輪による特需の反動で、前年をやや下回る見通し。所得の伸び悩みなどを背景に、消費者の節約志向は強まっており、洗濯機や掃除機、調理家電などの販売も伸び悩むとみられ、家電全体の販売額は前年を割り込んで推移する見込み。

業種	業界天気	トラック輸送量は前年を下回るも、倉庫は前年水準を確保
運輸・倉庫	☁ → ☁	(現況)・トラック輸送量は、エアコンや飲料などの季節商品が堅調に推移し、前年をやや上回った模様。普通倉庫の入出庫高は、紙・パルプの荷動きが低調だった一方、電気機械などが堅調に推移し、前年水準は確保した模様。 (見通し)・トラック輸送量は、年末にかけて荷動きに期待がかかるが、ウェイトの高い輸送用機器が伸び悩むとみられ、前年をやや下回る見通し。倉庫の入出庫高については、電気機械や食品関連の荷動きが堅調に推移するとみられ、前年水準は確保できる見通し。

業種	業界天気	ソフト開発が堅調に推移し、前年水準を上回る見通し
情報サービス	○ → ○	(現況)・全国の売上高は、計算事務等情報処理やシステム等管理運営受託が堅調に推移し、前年並みの水準となった模様。県内も首都圏からの受託案件が多く、前年実績を確保したとみられる。 (見通し)・全国の売上高は、引き続きソフト開発が堅調に推移すると予想され、前年をやや上回る見通し。県内も首都圏から多くの案件を見込んでおり、前年水準を上回る見通し。ただし、SE不足が深刻化しており、案件があっても受けられないケースも懸念される。

○好調 ○順調 ●普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	台風等の影響で食材価格が上昇して収益が圧迫
外食	●	(現況)・主要外食店の売上高は、前年並みにとどまる模様。7月は猛暑がプラスに作用したが、8月は台風、9月は曜日配列がマイナスに作用した。高額メニューの動きが鈍り出しており、節約消費が広がり始めている。
	→ ●	(見通し)・主要外食店の売上高は、前年並みにとどまる見通し。売上高を大きく左右する材料はなく、キャンペーンの成否が売上に影響しそう。地震や台風などの影響で食材価格の上昇は避けられない一方、安易な値上げは客数減に直結するため、収益が圧迫されることが懸念される。

業種	業界天気	観光列車「伊豆クレイル」の運行等で前年比プラス
観光・レジャー	●	(現況)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや下回った模様。三島スカイウォークの開業効果は続いており、格安施設は比較的堅調だったが、台風襲来による旅行中止やシルバーウークの休日減少が響いた。
	→ ●	(見通し)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや上回る見通し。韮山反射炉の世界遺産効果の一巡や、噴火が鎮静化した箱根山方面との競合が心配されるが、三島スカイウォーク以外にも、観光列車の「伊豆クレイル」の運行や、JR熱海駅の駅ビルオープンがあり、伊豆東海岸を中心に観光客が増える見込み。

業種	業界天気	新規案件が減少傾向にあり前年割れの模様
リース	●	(現況)・県内のリース件数・契約高は、前年並みで推移した模様。海外は新興国を中心に設備投資が減少した。国内は投資マインドが低く、産業機械や医療機器は前年を上回ったものの、主力の情報通信機器や事務用機器が伸びなかった。
	→ ●	(見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや下回る見込み。大企業は更新需要で底堅く推移するとみられるが、中小企業は動きが鈍い見通し。先行き不透明感が継続しており案件は減少傾向にある。とくに新規の設備投資に対しては慎重な姿勢が続くとみられ、前年を下回る模様。

業種	業界天気	需要は旺盛な状況続くが限定的な増加にとどまる
人材派遣	○	(現況)・県内の実働派遣労働者数は、前年を+3～5%程度上回った模様。販売業務や事務系業務、製造業務など多くの業務で需要は高かったが、供給側の人手不足のため大きくは伸びなかったとみられる。
	→ ○	(見通し)・県内の実働派遣労働者数は、前年をやや上回って推移する見通し。人手不足感が強まっており、今後も多くの分野で高い需要が見込まれるものの、供給サイドの人材不足が深刻化しているため、需給は逼迫した状況が継続し、限定的な増加にとどまる見込み。

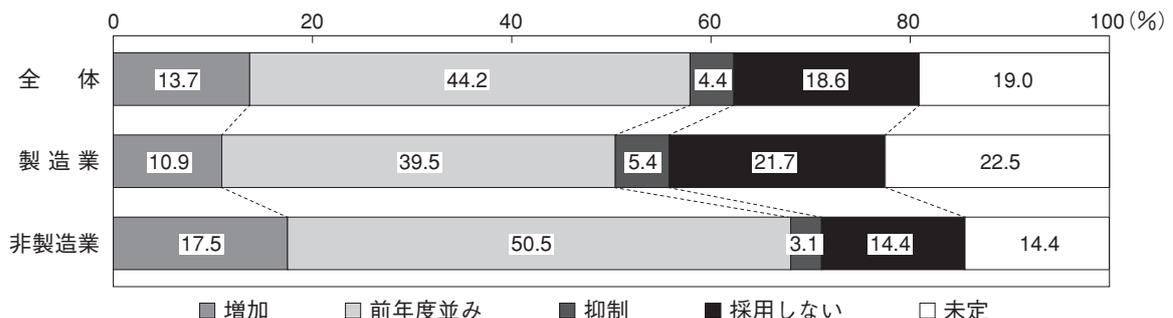
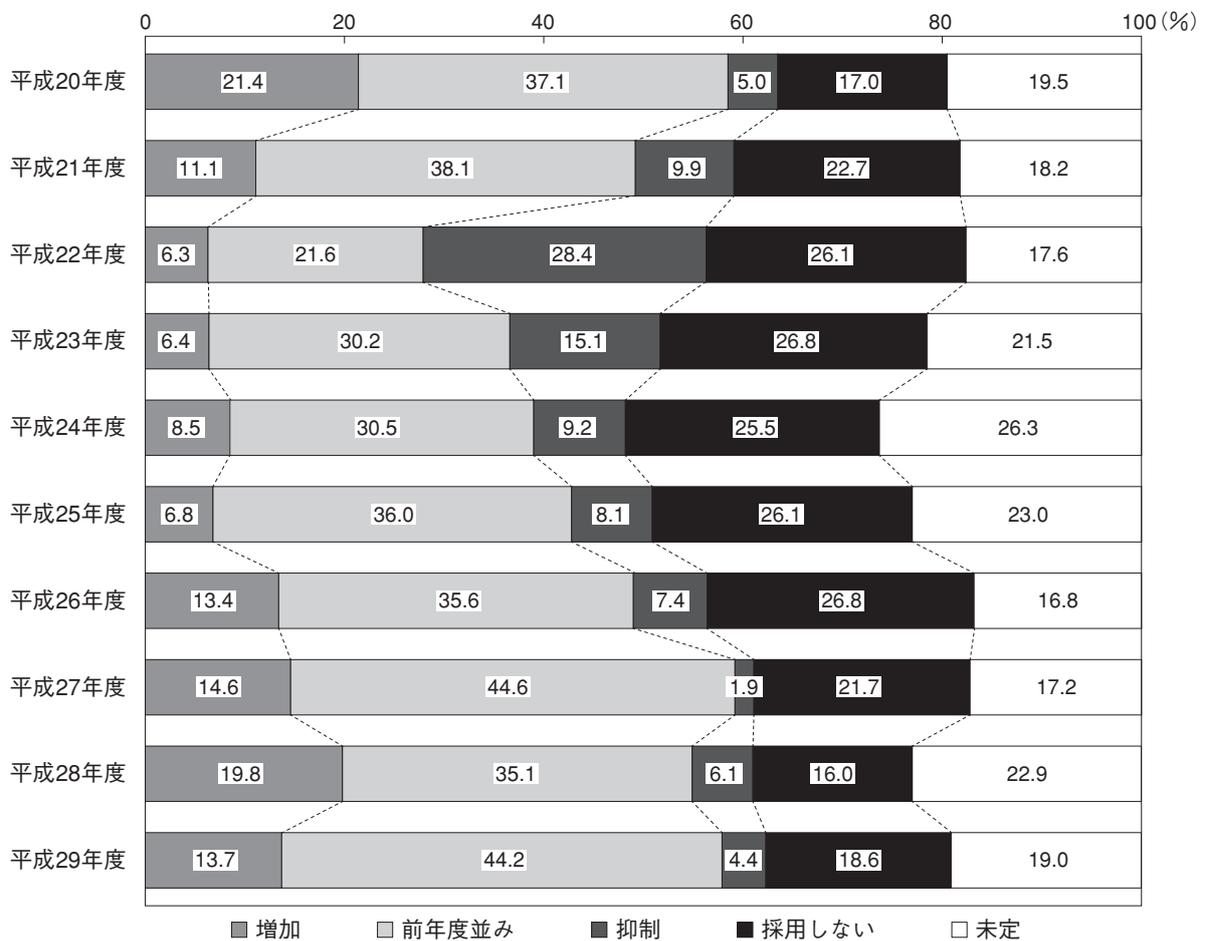
○好調 ○順調 ●普通 ●低調 ☂不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

新卒者の採用「増加」方針は若干減少も、新卒需要は底堅い

平成29年度の静岡県内企業の新卒者採用方針は、28年度より「増加」とする企業が13.7%と、前年度の19.8%を▲6.1ポイント下回った。また、「採用しない」が18.6%と、前年より+2.6ポイント増加したものの、前年並みが+9.1ポイント増加し44.2%と、新卒需要は底堅い状況を示しており、多くの企業が人材確保に前向きとみられる。

業種別では、非製造業で「増加」方針が17.5%と製造業の10.9%を大きく上回り、「前年度並み」(50.5%)と合計すると、7割近い企業が28年度の水準以上の採用を考えている。新卒者は売り手市場であり、大企業へ就職希望が多く、「中小企業が求人しても思うように集まらない」、「即戦力として中途採用を主としている」との意見も寄せられた。

図表 静岡県内企業の新卒者の採用方針



調査要領：調査時点平成28年9月、調査対象企業数555社、回答社数226社、有効回答率40.7%